

## I. 事業活動

### 1. 食文化の研究支援活動

#### (1) 第30回「食の文化フォーラム」の開催

①食文化を学際的に考える会員制の研究討論会である「食の文化フォーラム」は本年度で30回の節目を迎えた。「火と食」をテーマに3回（通算89回）開催した。

第1回 「火と人間」 (2011年 6月 18日 開催)

第2回 「火と生活」 (2011年10月 1日 開催)

第3回 「火と調理」 (2012年 3月 3日 開催)

②2010年度 食の文化フォーラム29「食の経済」の成果を単行本として10月に刊行した。

#### (2) 公開施設「食の文化ライブラリー」の運営

##### ① 図書 の 充 実

- ・新規登録点数3,151点：内明治～戦前期古書2点・期末蔵書点数40,739点：内明治～戦前期古書1,963点
- ・新規登録映像点数29点（期末登録点数355点）
- ・購入錦絵点数 2点（期末保有点数137点）

##### ② 利 便 性 向 上

- ・検索機能向上のため書誌データの再整備18千件中、6千件終了。
- ・レファレンス強化のため国会図書館レファレンスDB登録の入力手順作成とテスト入力開始。

##### ③ 情 報 発 信 強 化

- ・石毛直道氏の写真と解説による「石毛直道食文化アーカイブス」を館内で10月に公開開始。

##### ④ そ の 他

- ・書庫と書架の見直し検討と、蔵書廃棄ルール策定を開始した。

### 2. 食文化の普及啓発活動

#### (1) 季刊誌『vesta』の発行

2011年度は下記特集テーマで4号を発行した。

82号「ソースの文化論」 責任編集 武井 秀夫氏 (2011年 4月発行)

83号「世界の餃子とその仲間」 責任編集 石毛 直道氏 (2011年 7月発行)

84号「鍋の美味学ー火味の道具だて」 責任編集 山口 昌伴氏 (2011年10月発行)

85号「はじまりの酒」 責任編集 沼野 恭子氏 (2012年 1月発行)

#### (2) 公開講座

上期は「世界の食文化」、夏休み期間は教員・栄養士をターゲットに「日本の食文化と献立の変遷」をテーマに、下期はライブラリーユーザーである著名作家を講師に計4回開催して合計335名が参加した。

第1回6月11日「食を通してフランスを知ろう」①（講師：吉田 菊次郎氏）58名

第2回7月 2日「食を通してフランスを知ろう」②（講師：北山 晴一氏） 48名

第3回7月30日「日本の食文化と献立の変遷」 （講師：江原 絢子氏） 59名

第4回1月28日「時代小説『みをつくし料理帖』で味わう江戸の食」（講師：高田郁氏）170名

#### (3) 食文化展示室

企画展示「相撲と食」を11月24日～3月3日まで開催した。元力士の味の素(株)社員、前鳴戸親方、雑誌「相撲」元編集長などの協力をいただき、近畿、能登の祭りも取材して、大相撲のちゃんこ・茶屋、清めの塩、祭りにおける相撲と食の関連などを取上げてユニークな展示を行った。フォーラムメンバーからの評価も高く地方からも問い合わせがあるなど、2,291名（前年比109%）の来展者を記録した。

(4) 出版・映像記録頒布事業

日本の味・伝統食品」(DVD全4巻、別巻1巻)

販売実績 4巻セット32セット(前年19セット) 別巻「かつおだし」6巻(前年8巻)

(5) 公開シンポジウムの開催

①「食の文化シンポジウム2011」の開催

2010年度に開催した食の文化フォーラム「食の経済」の研究成果を一般の方々向けに発表したもの。大航海時代以降、地球規模での食物の交換により食の経済が発展し、新たな食文化が生まれて成長したことにより、わたしたちは世界の食を身近に楽しむことができる。画一化し便利になった食がある一方で、多様な地域の食を求める声がある。グローバルとローカル、食の安心・安全など食をめぐる課題について、経済と文化の視点から考察した。

テーマ : 「わたしたちは何を食べていくのかー食の経済と文化のつながりの中でー」

開催日 : 2011年11月12日(土) 13:00~16:40

会場 : 味の素グループ高輪研修センター

参加総数 : 185名

②「日韓食の文化シンポジウム」

経済面、文化においても関わりの深い韓国の研究者と共同で、韓国と日本の「麺」の歴史、知恵、文化をひも解き、その共通性と独自性について語りながら、互いの食文化への理解を深め、二つの国の食文化の共通性と独自性を考察した。

テーマ : 「おいしく語るアジアの食ー『麺』からみる韓半島と日本の食文化ー」

開催日 : 2011年10月14日(金) 13:30~17:00

会場 : 駐日韓国大使館 韓国文化院 ハンマダンホール

後援 : 駐日韓国大使館 韓国文化院

参加総数 : 213名

## 2. 財団運営

(1) 予算管理の徹底と経費の効率的使用を継続した。

(2) 「公益財団法人移行申請」作業について、定款案とその他の申請に必要な資料の作成を実施した。

(3) 収支について

①今事業年度より、財団で受入れ出向者の給与等の負担を開始した。

②国債1億円が6月に償還をむかえたので買替を行った。

以上